

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	作っている。	○	介護スタッフ全員が理念の把握をするように努めて行きたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を共有しているとまでは言い難い。	○	グループホームだからこそできることを考えてスタッフ全員が取り組んでいけるよう勉強して行きたい。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族の方にはホームの理念や思いを伝えているが、地域の方とは話し合いの機会を設けていない。	○	利用者様と散歩をしている時や玄関の掃除等している時に声をかけられてお答えする事はありますが、今後は地域の方に働きかけて理解していただけるようにしていきたいと思えます。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近所で顔を合わせれば挨拶をするようにしています。近隣の方も利用者やスタッフに気軽に声をかけて頂いています。	○	利用者と散歩に出た時等こちらから声をかけるよう心がけています。続けているうちに利用者の方も一緒に挨拶をされるようになりました。今後も継続して行きたい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近所の方とは必ず挨拶を交わすようにしています。町内会に入っているので組費も納めて回覧板が回ってきた時は参加できる行事があれば参加していきたい旨を近所の方にも伝えています。	○	地域の美化運動や行事があれば利用者と共に参加したい旨伝えていますが、組内が6件、内2件が内科医院、歯科医院で早朝、日曜不在と言う事でグループホームも同じと思われているようです。参加を申し出ても遠慮されます。今後も継続して声かけをして地域と密着した付き合いをして行きたいと思えます。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	取り組んでいない。ホーム内の仕事に追われているのが実情で地域の高齢者の方にまで考えが及ばない。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	あまり取り組んでいるとは言えない。	○	昨年までは介護スタッフの入れ替わりが有ったりで連携した仕事の取り組みがあまりなされていなかったようです。今回の外部評価を機会に改善に取り組んで行きたいと思います。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	普段面会時は御自分の家族の事のみ伺うことが多いが推進会議ではホーム全体の事と捉えて意見を出していただいている。	○	今後とも利用者様・家族・有識者の方の意見を尊重してより良いホームづくりに取り組んで行きたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	取り組んでいない。	○	今後サービスの向上に取り組んで行きたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	利用者に1名成年後見人制度を利用されている方がいる。	○	介護スタッフに後見人制度の説明をして理解を深めるようにしています。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	虐待について新聞等で報道されたりする度に虐待や拘束の意味を学ぶことができるよう話し合いをしている。	○	虐待や身体拘束も多岐にわたってある。良かれと思ってした事が拘束に繋がるなど・・・介護スタッフが知識を身に付けられるよう朝のミーティングの場や時間に余裕がある時に話し合う機会を作っている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行い、解らないことがあれば遠慮なく質問していただき納得して契約して頂く様にしています。	○	今後も利用者様・家族の方が納得の上で利用されるよう支援していきたく思います。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関の面会簿の横に意見箱を設置している。意見がある場合は入れていただくよう説明している。	○	訪室した際に意見や不満がある時はいつでも話していただくよう伝えている。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	9名の入居者の内8名の家族が最低でも月に1回支払(請求書の中に預り金の明細も同封)の為ホームに来られる。その時に近況報告を行いその間に行事で参加された写真等をカラーコピーで拡大し個人でファイルした物を見ていただいている。	○	健康状態に異変が生じた時はその都度Ⅲで報告をしています。お一人は家族が遠方で親子関係も複雑な為Ⅲにて近況報告をしています。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関の面会簿の横に意見箱を設置している。		家族の方には不満や意見がある時はいつでも連絡して頂く様に伝えている。又介護スタッフには管理者が不在の時でも連絡が直ぐに取れることを伝えるよう指示している。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングやカンファレンス等の場で各個人の意見を尊重している。一人だけの意見に止まらず総合的な意見を聞いて依りよい介護ができるようにしている。		職員が意見を出しやすい状況を作っている。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	家族に近況報告や連絡事項が円滑に行えるよう又家族の要望に対応できるよう月に数回家族が面会に来られる可能性の高い曜日に管理者が勤務するようにしている。	○	家族の方の希望時間に合わせて話合う機会が持てるよう声掛けして柔軟な対応ができるようにしている。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	できる限り離職等がないようにしている。	○	以前は離職や異動等があった場合は利用者の心理的な動揺を考えて利用者には説明をしていなかったが、離職する人と一緒に利用者が納得できるように説明をして送り出してもらおうようにしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○人権の尊重 法人の代表及び管理者は職員の募集・採用にあつては性別や年齢を理由に対象者からは排除しないようにしている。又事業所で働く職員についてもその能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。	ハローワークに求人を出す際、性別・年齢等不問にしている。又、職員に対しても勤務表作成前に希望休日を出してもらい仕事、プライベートが充実できるよう配慮している。	○	未経験者も採用し介護にたいして意欲的な人を育てたい。
20	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。	入居者一人一人の人生暦を把握させ、日常の勤務の中で人権に対して考え方等を口頭で伝えている。	○	外部での専門者による研修に参加させたい。
21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の能力不足を補える研修に行かせている。(外部研修が多い)	○	職員全体での内部研修をやっていききたい。
22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の通所介護、GHへ訪問したり相互の草取り、おやつを作って持っていったり等多様な面で交流している。	○	今後も続けて行きたい。
23	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	こちらから話し掛けていき気軽に話ができる雰囲気を作っている。	○	職員全体で会食でもしながらコミュニケーションをとっていききたい。
24	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	勤務態度を見極め指導をしていく上でその個人に合った話し方、内容を考え接している。(人の心の問題ばのでとても難しい)	○	運営者として共に成長していく！！ではなく1歩前に行く様に勉強して行きたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
25	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用者様には見学に来ていただいた時に思いや生活の過ごし方等を十分にお尋ねするようにしています。	○ 自宅から離れて生活をするという事は大変不安があると思います。今まで行っていた病院や入浴、食事、買い物等・・・問われたことにはゆっくりと時間をかけて説明して納得して頂くようにしています。
26	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	現在どのような事に不安を感じ困惑されているのかを伺い今後本人様にどのような生活を送っていただきたいのか何度でも話していただけるようにしています。	○ 今後も家族の方の思いを傾聴することで信頼関係を築いていきたいと思っています。
27	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者様・家族から相談を受けた時に本当にグループホームで生活された方が良いのか他の介護施設、或いは在宅で通所施設を利用された方が良いのかを一緒に検討しています。	○ 看板を見て訪ねてこられる家族の方も時々いらっしゃいます。ホーム内を見学され自宅での介護に疲れておられる様ですが相談された時は色々な介護施設の特徴や担当ケアマネに相談される事を勧め本当に本人様と家族の方が納得されて安心できる施設等を選ばれるよう話をしています。
28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	相談を受けた後グループホーム内を見学して、その場の雰囲気、介護スタッフの対応を見ていただき相談や質問等にお答えできるようにしています。	○ 一度だけの見学に止まらず誕生日会等の行事がある時にも連絡をして一緒に参加して頂く様にしていきたいと思っています。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日中楽しく一緒に過ごせるように話しをしたり分からない事など何うと教えてくださったり学ぶ事が多い。一緒に工作をする時もどうするのか理解できると皆で協力していただきます。	○ 本人様の得意な事、不得意な事を互いに補いながら楽しく過ごせるように努めて行きたい。
30	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人様の生活の仕方、体調等家族の方と話したり、家族の方の要望等を聞き、ホームで催した事などを報告して喜怒哀楽を共有して頂いている。	○ ホームでの催し事等の写真を見て頂いたり体調の変化等の報告を継続して行う。
31	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるよう支援している	本人様と家族の方との関係を理解できるように話しをしてお互いの要望などの橋渡しをして良い関係を築いていけるよう支援しています。	○ 今の現状をより多く理解していただきよい関係が築いていけるよう継続に努める。
32	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時はゆっくり本人様と話せる場所を作り行きたい場所などできるだけ行ける様になっている。	○ 昔の話を伺ったりして大切にしてくられた事などの把握に努める。
33	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	会話の困難な方などはスタッフが間にはいり利用者同士の関係をより良い方向進むように努めている。対立する場合などでも双方の考えを聞かせて頂き説明を行う。	○ 利用者同士の中でもスタッフが間に入ることによって雰囲気が変わる事も多々あるためお互いに支えあうように努める。
34	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	本人・家族様が遠慮なくその後の生活ぶりや相談ができるような信頼関係を築いていきたい。	○ 以前にも利用されていて亡くなられた利用者の家族の方から知人の方で紹介したいと言う申し出がありありがたく思いました。今後も信頼を得られるようなホームでありたいと思います。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様・家族からこれまでの暮らし方や今後の暮らし方の希望を伺うが、はっきりとした意思表示ができない方は一緒に生活をしながら性格・癖・過ごし方等把握するようにしている。	意思表示がはっきりできない方や認知症状の進行で理解力が低下している方はその時の表情や動作を見逃さないようにしていきたい。
36	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や親戚の方の面会時等に本人も一緒に以前の生活の過ごし方や楽しみ等聞かせていただいている。	利用者様・家族とゆっくり話が出来る機会を持ち多くの情報を得られるようにしている。
37	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個別介護記録に本人の1日の過ごし方を記入。できること、できないこと、一部でも介助すれば可能な事など記入するようにしている。	○ 本人の希望する過ごし方や現状を把握する為には今後とも介護者が本人の信頼を得て安心して話ができる関係を築いていく様努めていきたい。
38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	作成できるよう努力してます。	○ 主治医、家族にホームでの日常の過ごし方を報告しそれぞれの意見や希望を反映できるようにしていますが、家族の方は「預っていただいているだけでもありがたい」と言われてあまり希望を言われなため信頼してもらい本音で
39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人の現状態についてカンファレンスを行い作成している。	モニタリングを行い今の状態に即した介護が出来ているかどうか検討。入院等の状態変化があればサービス担当者会議を開催して計画書を作成している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
40	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	今年から個別記録の書き方を検討。	○	昨年迄の記録を読むと利用者の状態を把握する事が難しい為記入方法を検討し誰が見てもその時の状態が把握できるような記録が書けるように現在取り組んでいる。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	していません。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域資源の取り組みをまだしていない。		
43	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	していません。		
44	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在必要性がない為協働していない。		
45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれの疾患に応じて本人・家族が希望する病院で受診されている。		在宅時からの主治医の継続や主治医を変更したいと希望があった時は家族に相談。本人・家族が納得して信頼できる病院受診をしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
46	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	症状により心療内科等の受診が必要かどうかを主治医に判断を仰ぎ家族とも相談の上受診しています。	○	利用者・家族にとって精神科、心療内科受診は抵抗がある方もいらっしゃる為理解が得られるよう十分な説明ができるようにしていきたい。
47	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	自宅で生活をされている時から受診されている病院等では看護職の方で古くから知っている方もいらっしゃる為情報を得る事が出来ている。		近隣の特養に勤務されている看護師に病状を説明してそれぞれの病状に対する注意点等尋ねている。
48	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	主治医に急変時の対応や入院時にはサマリーを用意して本人が安心して過ごせるようにしている。家族と共に話を聞いて今後の治療内容や入院期間等把握するようにしている。		入院後も面会に行き状態をDrや看護師に尋ね退院後の受診状況、注意事項等の看護サマリーを貰うようにしている。
49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	月1回は家族とゆっくり話ができる時間を作り受診後の主治医の意見や病状を説明して家族の終末期に対する思いを聞いている。		急変の可能性が高い疾患を持っている方もいらっしゃる為家族との面談時利用者への思いを尋ねるようにしている。又食事制限等がある場合は主治医に家族の思いを報告し今後の対応を相談するようにしている。
50	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	当ホームには心疾患が重度化した利用者様や他の疾患で注意を要する利用者様もいらっしゃる為家族の方には病院受診時に重篤になった場合の対応の仕方等を習った事を説明。家族のかたには必ず検査の内容や主治医の見解等を報告し理解を求めている。	○	ホームには看護師がいない為介護者の不安も強い(特に夜間帯)が主治医の指示を仰いで家族の方の要望に向けた支援が実践できるようにしていきたい。
51	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	別の居所へ移られるときは看護サマリーを用意して本人様・家族・介護関係者の不安を解消できるよう支援しています。	○	他の場所での生活になっても安心して日常を送って頂けるよう情報交換をしていきたいと思います。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	居室のドアを閉めることを希望される方は閉めるようにシロックをして必ず訪室するようにプライバシーを損ねないよう心がけている。個人へ送られてきた郵便物等も直接本人に手渡す又理解困難な方の物は家族に手渡すようにしている。記録に関しても個人情報を記載しているため漏洩に繋がらないよう配慮している。	○	利用者様の人格を尊重して不用意な言葉かけなどしないよう気を配るようにしています。記録を記入するときに利用者様の状態を見ながら記録している時もある為今後充分配慮していきたいと思います。
53	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者様の性格や理解力を考えて希望や今の思いを聞かせていただくようにしている。失語症の方や難聴の方とのコミュニケーションを取ることは難しいですがゆっくりと傾聴して思いを遠慮なく話していただき納得して生活が送れるよう支援しています。	○	利用者様の中にはその時の精神状態によって強く帰宅願望が出る方もいらっしゃいます。その時は家族の方とも話し合っって面会に来てもらったり一緒に話しをして納得していただくようにしています
54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活のリズムに合わせて過ごせるよう支援していますが病院受診等がありホームの車が利用者様の希望時に使用できない時などは時間を前後に合わせてもらうようお願いしています。	○	基本的に利用者様の個人のペースに合わせて支援するようにしています。希望に添えない事態の時は本人に理解を求めて対応していきたいと思います。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	本人の希望する理容室・美容室に行くようにしています。身だしなみは季節に応じた装いが出来るよう配慮したいです。		家族は利用者様が入居してから化粧等するようになられたことで、最後までおしゃれをして欲しいと思われている事が分かり、美容室におしゃれ染めを依頼。認知症状も説明して快く引き受けてもらい実現することができた。
56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の物を味わっていただくようにしている。井物でうなぎ等の好き嫌いがはっきりしている方は希望を聞いて親子丼に変える。		春には利用者も一緒に土筆採りに行ったり(帰宅後袴取りを利用者さんに頼みました。ほぼ全員参加)、いんげんの筋取りやきゅうりをスライサーでする等できることは手伝って頂いています。下げ膳もできる方をお願いしています。
57	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	家族や主治医に相談した上で本人の希望するお酒が飲めるようにしている。		喫煙者はいないが飲酒の希望はあり誕生会等の行事の時は飲酒してもらっている。又晩酌を希望されている方は家族、主治医の同意を得て楽しみを持ってもらっている。中には甘い物を拒否される方がいらっしゃる為バースディケーキを本人の希望するたこ焼き等に代替している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	失禁された場合は本人が傷つかないように配慮した言葉かけをしている。骨折等で止むを得ず紙パンツの使用をするようになった場合でも早期に自力で排泄ができるように支援しています。		オムツ使用で便秘気味の方はトイレ誘導し座ることで排泄がスムーズに行えるようにしています。又いきなりオムツにしないで失禁が急に増えた方にも本人に了解を得てポータブルトイレを設置することで失禁を軽減できるように支援しています。
59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	以前スタッフが少なかった時のままで曜日を決めて現在も入浴してもらってます。時間や利用者様が希望された場合は決められた曜日以外も入浴していただくようにしています。	○	毎日入浴できる状態に・・・と言う話し合いは数回してきましたが、まだ結論には到っていない。早急に進めていきたいと思えます。
60	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	食事の時間やおやつ等の時間は決めて声かけしていますが本人の意向を重視して基本的に自由に過ごして頂く様にしています。		入眠されていて声かけしても休まれていたり、希望される時は時間をずらして食事や入浴はしてもらってます。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者様・家族から楽しみにされてきたこと、趣味等を伺い例えば庭の手入れが趣味の方は一緒に声かけをして草刈鎌や草抜きを使って庭の手入れを手伝ってもらってます。囲碁が趣味の方は同じ趣味をお持ちの方やスタッフが対戦して楽しんでいます。	○	趣味が分かっても出来ないこともあり(釣りが好きな方がいらっしゃり男性スタッフが勤務していた時は近くの川に行かれていたとの事)他に興味を持たれることを引き出して楽しく過ごしていただけるよう取り組んでいきたい。
62	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様・家族と話し合い前もって所持してもらう金額を検討し手渡すようにしています。買い物の希望をされた時はスタッフが同行して見守りをするようにしています。		家族とも相談の上近隣のスーパーや100円ショップ等本人が気軽に自分で品物を選んで買い物できる程度の所持金は持ってもらってます。
63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や散歩等はその時の天候や時間にも依りますが本人の希望に副うように支援しています。	○	花見等外出の行事以外は特定の利用者様だけになりがちなため希望を言われたい利用者様にも外出の楽しみを味わってもらえるよう声かけしていきたいと思えます。
64	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	お盆に墓参りや親戚のお宅への訪問等希望されるときは家族の方と話し合い家族の方が一緒に行けるのであれば依頼し困難時は場所にもよりますがホームで対応出来る事ことであれば支援するようにしています		利用者様が以前働いていた人達との親睦会等の連絡があれば、家族に連絡をして本人が行きたいとの希望があれば家族の方にも理解していただけるよう支援するようにしています。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様が希望し家族の方も了承されている場合は電話の利用をさせていただいています。		
66	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族・知人の方にもできるだけホームに遊びに来ていただけるよう声掛けをしています。本人の部屋に入りきれないような多人数で来られた場合は食堂やフロアーでゆっくと話ができるよう勧めています。	○	家族・知人の方が訪問しやすい雰囲気を感じていただけるよう努力していきたいと思います。
(4) 安心と安全を支える支援				
67	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束のないケアに取り組んではいるが、中にはベットの柵があるからこそ転倒を予防をすることが出来たり、柵を使う事で自力で立位をとることができている利用者様もいらっしゃいます。	○	本人様の行動や身体状況を家族の方に報告して家族の方から安全を第一に考えて欲しいと言う要望で安全ベルトを使用されている利用者様もいらっしゃいます。本人様や家族の同意の上での事ですが必要のない拘束は絶対にしてはいけないと言う事は常々ミーティングの場で話し合っています。
68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	急遽病院受診が入ったりで介護者の人数が足りない場合等外出願望の強い利用者様に説明をして納得して頂く様にしているが困難な場合はやむおえず玄関に施錠していることもありました。		どうしても対応困難で事故に繋がる可能性が高い利用者の方は家族の方に状況説明して理解を求めようとしている。
69	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	訪室時には必ずノックして声掛けを行うようにしている。自室で長時間過ごされている方は時間毎に訪室して安全確認をするようにしています。		夜勤帯は介護者が一人の為全員に注意を払うのは難しい。転倒の危険性がある利用者様に移動時には必ずコールを鳴らしてもらうよう依頼している。
70	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	安全に使用できると思われる利用者様には自室で管理してもらっています。		本人の持ち物の把握をするようにしています。入居後に家族の方が持ってこられた物で危険性が高い物(草取り鎌)等は本人・家族に了解を頂いて事務所の方で預るようにしています。
71	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	各個人の認知症状、性格を把握して事故防止に努めています。又事故発生後迅速に対応できるように緊急連絡網を作成しています。	○	説明しても理解されない方もいらっしゃる為それぞれの性格や認知症状の進行状態を常に朝のミーティングで話し合い事前に防止策を検討。遅出、夜勤者に報告漏れがないようにしています。研修等で知識を学ぶ事も必要だと思います。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	転倒等により皮膚の剥離が生じた場合傷口の手当てや熱発による解熱の方法等はホームで管理者指導の下習得している。又救急搬送の手順についても対応法を習得している。	○	突発的な湿疹、剥離以外の怪我に対しての処置法が不完全な面がある為様々な症状によるケアの仕方を習得できるようにしたい。
73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難経路方法が習得できていない。地域の方達とは挨拶程度の付き合いに留まっている為災害時に協力が得られるかは不明。	○	避難経路にしている場所に物が置いてあったり、緊急時に対する話はよくしているが確固たる手順が出来ていない。早急に話し合いの場を持ちスタッフ全員が把握して行動できるようにしたい。
74	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	家族には利用者の状態、リスクについて説明等を行っている。	○	今後も利用者様・家族とコミュニケーションを図り本人・家族の意向を取り入れながら対応策を講じて行きたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	バイタル表、排泄表のチェック、食事摂取時状態を観察して異変時は介護者が直ぐに報告するようにしています。又夜勤帯の急変時でも連絡するようにして救急を要するような事態であればすぐに出向くようにしています。		状況に応じてそれぞれの主治医に報告。指示を仰いで受診や状態観察をするようにしています。今後も特記事項に限らず気付いたことがあればスタッフ全員に報告、伝達を怠らないように取り組む。
76	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診時に貰う処方箋は必ず本人の介護記録に綴じるようにしている。又薬の変更があった場合等服薬後の変化を見逃さないように様子観察を行い病状に変化がある時は直ぐに主治医に相談し記録するようにしている。		服薬管理が必要な方が殆どの為介護職員全員が責任を持って利用者の服薬状況を把握する事が必要。又各薬の副作用についても把握しておく。副作用等による症状の変化が見られた場合は速やかに医療機関に連絡する。
77	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェック表を必ず確認している。便秘になりやすい方は水分の補給、腹部マッサージ又オムツの方も便器に座る事で排泄しやすくなる為トイレでの排便を試みたりしている。		便秘薬服用しても数日排便がない時は主治医に連絡し指示を仰ぐようにしています。
78	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	自立して出来ている方は遠視見守りを行い。介助が必要な方はできる部分はしてもらい磨き残しを介助しています。	○	義歯等自分で外して磨くことができる方はブラシに歯磨き粉を付けて手渡し自分で磨くことができるよう支援しています。自立の方は遠視見守りのみの為今後は口腔ケアの見落としがないようにしていきたいと思えます。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	病院の指示で水分量が決められている方や脱水症防止の為に水分・食事量のチェック表で摂取量を確認するようにしている。栄養バランスに関しては栄養士の作成したレシピにしたがい食事担当が作るようにしている。		野菜不足がないよう又盛り付け方に工夫して作っていききたい。誕生会等の時は誕生者本人の希望も取り入れてメニューを決めることもあります。
80	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	定期的に感染症に対する予防接種(本人・家族の希望を聞いて)を受けてもらっています。	○	手洗いの励行、ウエルパスによる殺菌等予防に努めている。
81	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	夏季はなるべく生ものの提供は控えている。食材にはしっかり火を通したり、台拭きやまな板等ハイターにつけて除菌するようにし、まな板も生もの用と野菜用に使い分けている。		料理は全職員が当番でするようになっている為今後も各々が責任を持って衛生管理に努めていくようにしていきたいと思えます。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
82	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	住宅街の中に位置しており玄関横に花壇を置き他の建物と違和感がないよう工夫しています。近所に小学校があるため小学生が時折ホームに来て話をして帰っていきます。	○	安心して出入りできる状況にある為逆に小学生が訪問してきた時に言葉遣いや無作法が目につく事もあり利用者が不愉快な思いをした事もあった為今後は注意すべきことは注意してより良い関係が作れたらと思います。
83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレの壁には折り紙の飾りをしている。清潔感を保つようすっきりと片付けている。夜間も安心してトイレへ行くことができるよう電気を点けて明るくしている。	○	お盆前には食堂と玄関にほうずきを活けて季節を感じてもらえるようにしました。もっと共用空間の場所に季節の物やホッとできる物を工夫していききたいと思えます。
84	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアがあり、相撲がある時はその時間になると自然と相撲好きが集まって一緒に観戦されている。	○	共同の場所である事を認識されていない方がいると場所取りで利用者間でトラブルが起こり事もあり今後どのように説明していけば良いか検討中。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅で使用されていた鏡台や暖簾、湯のみ等持参し愛用されている。		利用者様・家族の方の要望を取り入れたり、ホームの方から馴染むの品物を使用することで落ち着かれることを説明して持参して頂くようにしている。
86	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各居室には換気扇が設備されており常時スイッチをONにしている。居室の掃除の時に戸を開けて換気に努めている。又室温に気をつけて外気との差がないよう配慮している。ポータブルトイレを設置している部屋やオムツ使用の方の居室には消臭剤を配置している。	○	居室のドアの横にコントロールパネルが設置されている為利用者の方が操作をされ時季にそぐわない温度設定をされたり、冷房が暖房になってたりという事が始終ある。その都度説明しているが納得されていないようなのでスタッフが廊下を通るたびに気をつけるようにしている。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール・トイレ・浴室・廊下には手摺りを設置し安全に移動できるようにしている。		車椅子や杖を使用して移動される方もいらっしゃる為廊下には移動の妨げになるような物は置かないようにしています。
88	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	自宅で生活を送られてきた時と同様できることはした頂くようにしている。洗濯物を畳む、居室内や廊下を掃く等。困惑されている時は一緒に作業をすることで混乱することなく進むことができるようにしています。	○	女性の利用者様で理解できる方は生活に即した事は一緒に手伝って頂けるが男性の方は昔気質の方が多く中々意欲を引き出していく事は困難な状況です。
89	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	居室から中庭には自由に出られるようにしてある為草取りをされる方や天気の良い日は自分で洗ったタオルを物干しにかけたり庭石に座って爪きりをされる方等自由に過ごされている。		草取りをされている時等スタッフも一緒に会話をしながら楽しんで作業ができるようにしています。又夏には中庭を利用して花火会をしました。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		○	③あまり増えていない
			④全くいない
100	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当ホームは閑静な住宅街の中に位置し近所には歩いて行ける距離のスーパーや医院、歯科医院等があります。又小学校も近い為子供さん達の元気な声が風に乗って聞こえてきます。ホームでは利用者様にも日常生活の中でできることは一緒に手伝っていただき（女性には朝、掃除機をかけるときに廊下をモップがけして頂いたり、和室は箒で掃く等男性は庭の草取り等）自宅で過ごされていた時にされていたことをできるだけして頂いてます。スタッフにも元気に明るく接するよう指導しています。私達が元気に笑顔で接していれば利用者様も元気に笑顔を向けられます。最後までその人らしく生活していただく為傾聴することは忘れずに普通に家庭で生活しているように、たまには言い争いになったり、協力して何かを作ったりと利用者様、スタッフが大家族のような生活を送る事ができるようにしています。